

2023-2025 年度

中期経営計画の進捗

2023年度から3か年の中期経営計画では、「2030年ありたい姿（BE2030）」に向けた3年間アクションプランを込んだものです。2025年度は計画の最終年度の年として、直面する課題への対応に力を注ぎます。

	金属チタン事業	触媒事業		化学品事業	新素材事業	
キャッチアップ戦略	- スポンジチタン価格水準の適正化 - チタンインゴット増産による加工マージン増収 - スポンジチタン（若松/茅ヶ崎工場）設備の一部改良による能力増強 - 採算性確保が可能な新工場建設検討 - 労働生産性30%改善	- 黒部・茅ヶ崎工場の生産技術改善（現状生産能力に対して約40%アップ） - 新工場建設による生産能力増強（現状生産能力に対して約30%アップ） - 触媒高性能化による攻めの市場開拓 - 労働生産性30%改善		- 第5工場稼働による生産能力増強（総完成時には現状生産能力に対して約40%アップ） - 次期増強投資の具体化（現状生産能力に対して約30%アップ） - 労働生産性30%改善	- WEBTi® の事業拡大 - 新規事業の創出	キャッチアップ戦略
23 - 25 主要施策	- コスト変動に連動した価格フォーミュラー化 - 若松/茅ヶ崎工場のスポンジチタン生産能力増強（3,000t/年） - サウジスポンジ工場（ATTM社）フル操業 - チタンインゴット生産効率向上	- 生産技術改善等による生産能力増強（現状生産能力に対して約6%アップ） - 新工場建設による能力増強計画策定		第5工場稼働（25年度予定）による生産能力増強（現状生産能力に対して約20%アップ）	- 新素材事業部でWEBTi® の事業化 - 事業拡大に応じた生産能力増強 - 技術戦略部と技術開発センターで新規事業テーマを企画・開発	23 - 25 主要施策
2024年度 の進捗	- 中計に掲げる主要施策については、概ね計画どおりに進捗。収益は航空機向け販売が堅調に推移。一般産業用向けは低調だが、半導体向けの高純度チタンは回復傾向 - 価格競争激化のなかで、品質面で差別化を図る事業への転換が不可欠	- 中国PPメーカーの新参入・生産増加による輸出量の増加で、中国周辺諸国の当社顧客の生産量が低迷。その他の地域での需要回復もあり全体では回復基調。ただし、中期経営計画の当初目標に対しては大幅未達 - 収益性の向上に向け、高機能触媒の開発と生産能力増強に注力		- 中国の経済停滞の影響を受けてきた、MLCC向けの超微粉ニッケルの需要は、力強さに欠けるも回復傾向に向かったが、ニッケル価格の市況低迷もあり、販売価格は下落 - 競争激化が見込まれるなかで、今後は開発リードタイムの短縮や生産能力増強に注力	- PEM型水電解装置の需要立上り遅れにより、WEBTi® の事業拡大は2028年以降になる見通し。その他の新規事業案件の検討は計画通り進行中 - WEBTi® 事業のグローバル展開に向けた準備を進めながら、グローバル人材の育成を急ぐ	2024年度 の進捗

提供価値

東邦チタニウムグループの製品は、航空機や化学工業、通信機器、医療、自動車など幅広い市場で採用されています。



航空機分野

航空機のエンジンに使用されているほか、機体の軽量化・燃費向上のため、ボディ材にも多く採用されています。



一般産業分野

薬品や海水に触れる環境下でも腐食しにくいチタンは、LNGプラント、海水淡水化プラント、化学プラントなどで広く活用されています。



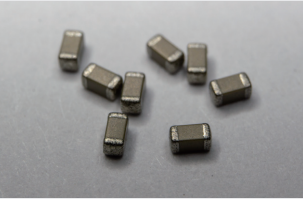
建築分野

寺院や神社、公共建築の屋根材など、長期にわたり耐久性・耐震性が求められる建築部材の材料として、チタンが採用されています。



自動車・二輪分野

ポリプロピレン製造用触媒は、食品容器、包装材、衛生消費材、および自動車内外装など、幅広い産業分野で用いられています。



電子材料分野

超微粉ニッケルは、スマートフォンや自動車、家電製品など多くの電子機器に搭載されるMLCCに使用されています。



健康分野

高純度酸化チタンは、錠剤のフィルムコーティングなど医薬品の添加物として認定されており、多くの製薬会社で使用されています。



海洋土木分野

羽田空港滑走路の栈橋や東京湾横断道路などの公共施設の建材として用いられ、都市の重要なインフラを支えています。